

各国 AI 事情

■ ダニエル浅野(TLCCC ニューヨーク教会牧師)

どれだけアメリカの家庭に浸透しているかは分かりませんが、一番、コマーシャル等で見かけるのが、アマゾンが出した、アマゾンエコーというAI搭載のスピーカーです。アレクサ(Alexa)と呼ばれるAIが搭載されていて、アレクサに色々なことを質問したり、やってもらいたいことを言ったりして、応答があるそうです。天気を聞いたり、音楽を再生してもらったり、調べたいことを聞いたりできるようです。 아이폰に搭載されているシリ(Siri)と呼ばれるAIと同じようなものでしょうか。

フェイスブックでは、写真を投稿すると、その写真にある顔を自動認識して、友達タグ付けが提案されます。これはAIで、顔認識をしているそうです。フェイスブックは、顔認識ソフトウェアの動力を増すため、人口の神経ネットワーク(人間の脳の構造を模倣したもの)を使用することを議論しているそうです。

アメリカでは、色々な支払いに、チェック(小切手)が用いられますが、銀行の窓口に行くと小切手を入金したり、ATMで預入れしたりせず、スマートフォンから、各銀行のアプリを手に入れ、預入れできるようになりました。スマートフォンで、小切手の両面の写真を撮るのですが、小切手の裏面の手書きサインを判別するために、AIが用いられているそうです。私も銀行に行く手間が省けるので、よく利用しています。

■ 上館 千恵子ジョンソン(TLCCC バトンルーージュ教会/デンバー教会牧師)

私の身近なところでAIが使われているというと、まずはマクドナルドです。最近、セルフオーダーの機械が導入されました。サービスが早くなり、ミスも少なく、良かったと思います。特に、日本語なまりの英語が通じなかったりという、店員さんとのやり取りのトラブルが無いので、私は助かっています。慣れていない店員さんだと、長い列ができて、待つことも多かったのですが、この機械が導入されてから、待ち時間が短縮されています。

他には、クレジットカードを、旅先など、いつも使っているエリアではない所で使うと、カード会社から連絡が来たりしますが、これもAIで行動パターンなどを調べているからかなーと思ったりしています。

また、オンラインで何かを買おうと思って、調べたものの、結局買わなかった時などは、そのあと、しつこくその商品の広告をネットで見ます。その他にも、何かの言葉を検索すると、その言葉に関連した商品などの広告が次々と出てきます。これらもAIを使っているのだろうなーと思いつつ生活しています。

■ フェイス佐々木(TLCCC ロサンゼルス教会牧師)

* ロサンゼルスでの交通渋滞は半端ではありませんが、通過する車の量で信号機の時間や動作調整が自動対応していると聞きました。いつもの調子で慣れた道を運転していても、時間帯が変わると車線変更を余儀無くさせられて少し慌てたりしています。

* コマーシャル電話での対応(こちらの言葉に反応して返答が自動で変わる)でもAIが使用されています。会社に問い合わせをしても、先ずAIが対応し、こちら側が必要な情報を教えてからでないとか中々カスタマーサービス(人)まで届きません。英語の発音が違ったりすると何度も言い直しをさせられてしまいます。特に「何を言っているか分からない」とAIに言われた時は、さすがに私も苦笑してしまいました。多くの会

社が上記のような自動処理をしていると思われます。また、商品に関して検索したりすると、その後その商品のクーポンがタイミングよく送られて来ますし、買い物をした後も同様な商品のコマーシャルやクーポンが絶妙なタイミングで送られて来て私の日常生活の全てが知られている感じを受けています。

* PC/スマホ画面や履歴から自動判断してオススメが出てくるのにはいつも驚かされています。旅行チケットを調べていると、その後1週間くらいは旅行関係のコマーシャルが画面に表示されます。便利な面があり毎日の生活の中でAIの恩恵を沢山受けているとは思いますが、いつも誰かに監視されている様に思えてなりません。この群れでは、21世紀型の伝道や宣教が語られていますので、教会のこれからの働きに実際にどういうふうにAIを用いていくかが大きな課題です。

■エルサレム 瀧野真弓

(TLCCCハワイ教会牧師/TLCCCロス教会協力牧師)

毎日の生活の中で、機械系はあまり得意ではない私でさえPCを開かない時はありません。

特に、色々な事を検索する時には本当に重宝していますが、検索時にはAIがより良い正確な情報を提供するために情報の選択をなしているとの事。今の情報社会において、この検索という事一つとっても、AIは無くしてはならないものと思われています。

更に、数年前の事になりますが、クレジットカードのセキュリティーの面でAIの恩恵に預かった事があります。アメリカでの生活にはクレジットカードが必要不可欠で、頻りにカードを使います。

腰を痛めた時に医師の処方箋の薬などを購入するためにドラッグストアでクレジットカードを使用しました。その数日後、カード会社から2件のカードの高額使用について確認の電話が入りました。それは全く身に覚えのないものでした。

カード会社は直ぐにカードの使用を止め、新しいカードを作成してくれる事になったのですが、この時、これまでの私のカードの使用状況を総合的に判断したのはAIによるものと思われます。不正使用の可能性が高いというAIの分析から、迅速な対応がなされ、大事に至らず事なきを得ました。

また、とても便利なAI搭載の生活用品が次々と出てきていますが、私もどんどん使ってみてみたいと思っています。その中でも、掃除機:ルンバなどはアメリカではあまり見かけませんが、是非使ってみてみたい物の一つです。

AIについては、まだ極僅かなことしか理解できていませんが、生活に密着した形で多方面で用いられているAIの活用についてより深く知ることができるよう願っています。そして、21世紀型の宣教と語っておられる神様のご計画を全うしていくために、主の働きにAIを効果的に取り入れることが出来るように主に期待しつつお祈りしています。

■ B. N.

シャローム。イスラエルのAI事情についてご報告します。イスラエルはハイテクや医療などがとても優れていると言われている国です。しかし、実際にイスラエルに住んでいるとハイテクなはずなのに、また、医療などがとても進んでいると聞いているのに、それほどハイテクな国、医療が進んでいると感じたことはありません。イスラエルには多くのハイテク企業、医療関係の企業はとてたくさんあり、技術や新しい発明など様々あるのは事実です。しかし、結局海外へ輸出してしまい、そのお金や税金はセキュリティーに使われてしまうため、イスラエル国内ではセキュリティー以外の発達はそれほど新しくはないのが現状です。

ですので、イスラエルのAI事情について調べましたが、まず実際に住んでいてもAIを用いている場所は見当たりませんでした。

イスラエルにある有名なアメリカ系の大企業においてはAIの研究を最近始めているようですが、実際に用いているというのは聞いていません。最近のニュースでは、ベエル・シェバの大学がイスラエルの警察と共同で、近い将来AIを用いて、サイバー攻撃の防止、また、犯罪が起きる事を前もって予測し、犯罪にならないようにするというシステムを考案しているようです。

イスラエルではまだ日本ほどAIにおいては表面上発展していませんが、セキュリティ、軍事関係においてはもうだいぶ前から水面下でAIを導入しているとのことは聞いていますが、軍事関係においては表ざたにはならないため、目の当たりにはしていませんが、アイアンドームなど、イスラエルを攻撃するミサイルが飛んできて確実に迎撃し、そのミサイルを破壊することができるのはAIなのではないかと言われています。

今後、イスラエルがどのようにAIを導入していくのかはとても興味深いと思いました。